

文教民生常任委員会

令和4年7月5日
委員会室

1 開 会

2 協議事項

- (1) 令和3年度事務事業評価事業報告書について

- (2) 令和4年度事務事業評価対象事業について
 - ア 環境美化パトロール事業

 - イ 教育カウンセリング事業

- (3) 行政視察について

- (4) 課題懇談会について

- (5) その他

令和3年度 事務事業評価報告書

令和4年8月

文教民生常任委員会

評価対象事業「子どもの読書活動推進事業」

(子どもの読書活動推進事業の事業内容と令和3年度実績)

- 1 対象事業名 子どもの読書活動推進事業
- 2 事業予算 令和3年度予算 818千円
- 3 担当部署 教育委員会生涯学習課図書館
- 4 事業内訳
 - ①ブックスタート事業
 - ②図書館の運搬業務委託
 - ③郷土カルタ大会の開催

5 実績

①ブックスタート事業

出生届時と10か月児乳児相談時に絵本を配布

・予算執行状況（令和4年3月末現在）

予算は配布用絵本の購入費用（需用費のみ）

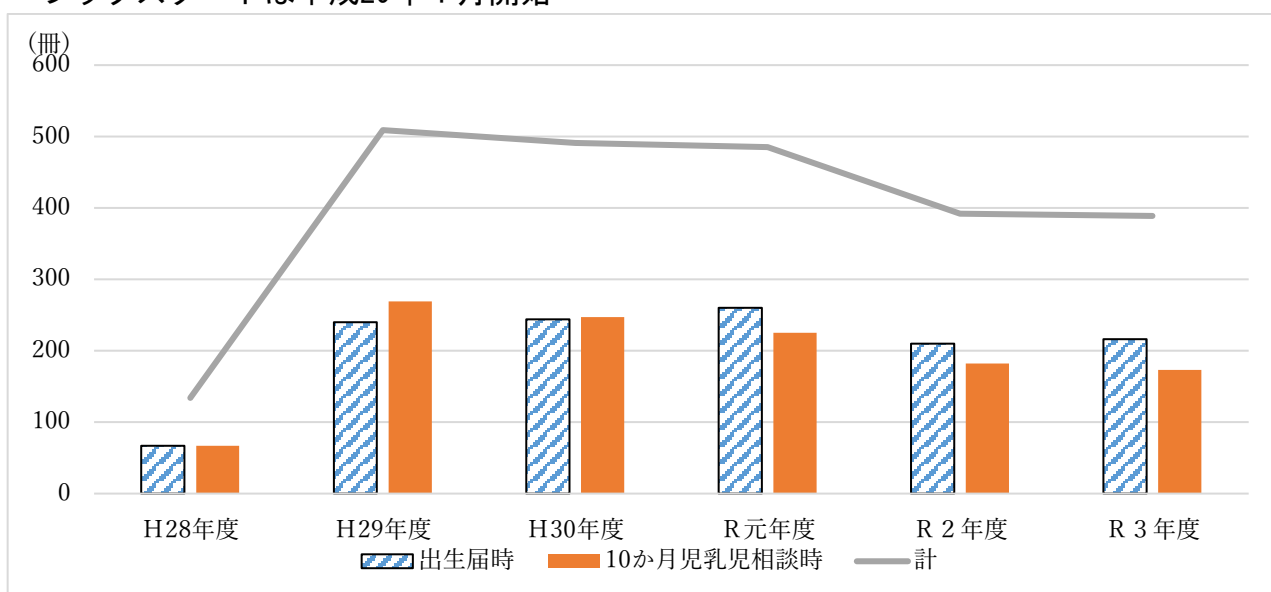
区 分	予算額（円）	執行済額（円）	支出残額（円）
需用費（消耗品費）	260,000	257,840	2,160

・絵本配布冊数

（単位：冊）

区 分	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R元 年度	R2 年度	R3 年度
出生届時	67	240	244	260	210	216
10か月児乳児相談時	67	269	247	225	182	173
計	134	509	491	485	392	389

ブックスタートは平成29年1月開始



②図書の運搬業務委託

市内学校園への図書の運搬業務を委託する事業

令和4年3月末 登録団体数 286団体

利用団体数 令和2年度 132団体 令和3年度97団体

・予算執行状況（令和4年3月末現在）

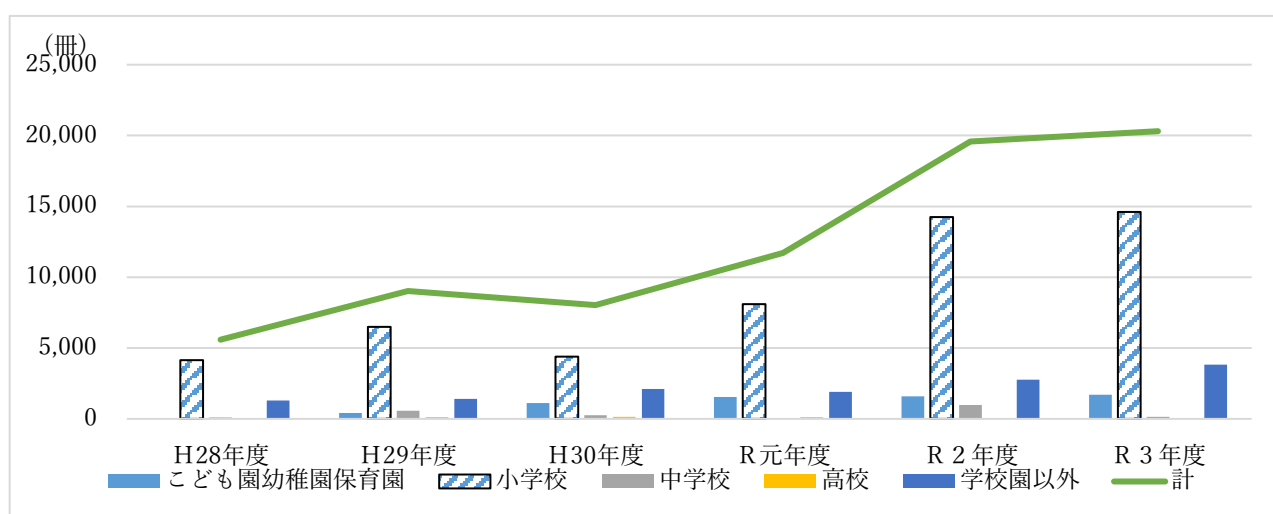
予算は学校園への貸出図書の運搬業務委託料（委託料のみ）

区 分	予算額（円）	執行済額（円）	支出残額（円）
委託料	528,000	484,880	43,120

・図書団体貸出冊数

（単位：冊）

区 分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
こども園幼稚園保育園	0	419	1,127	1,550	1,589	1,698
小学校	4,150	6,494	4,389	8,095	14,244	14,600
中学校	95	580	250	51	976	156
高校	49	118	148	114	14	16
学校園以外	1,297	1,418	2,110	1,898	2,763	3,835
計	5,591	9,029	8,024	11,708	19,586	20,305



③郷土カルタ大会の開催

にしわき郷土カルタを使った大会開催時の賞品等の費用

・予算執行状況（令和4年3月末現在）

予算は大会に係る賞品等の購入費用（報償費のみ）

区 分	予算額（円）	執行済額（円）	支出残額（円）
報償費	30,000	0	30,000

コロナ禍により大会開催できず、予算は未執行であった。

なお、1月9日に「にしわき郷土カルタあそび」を実施。これは、こどもプラザと合同で開催した正月イベントの中で実施したもので、カルタには約80人（延べ）の参加があった。

(事業概要)

対象事業である子どもの読書活動推進事業は、①ブックスタート事業、②図書の運搬業務委託、③郷土カルタ大会の開催の3事業からなっている。

- ①ブックスタート事業は、出生届時と10か月児乳児相談時に絵本を配布する内容で、配布する絵本を選択することができ、概ね好評である。予算は配布用絵本の購入費用であり、平成29年をピークに補助金額、補助件数ともに年々減少しているが、このことは出生数の減少によるものである。
- ②図書の運搬業務委託事業は、市内学校園への図書の運搬業務を委託する事業である。令和4年3月末、登録団体数 286団体、利用団体数である。新型コロナウイルス感染拡大の中、令和2年度・3年度の貸出冊数は伸びてきている。市内の学校園に喜ばれている事業である。
- ③郷土カルタ開催事業は、にしわき郷土カルタを使った大会を開催するもので、予算は大会開催時の賞品等の費用である。コロナ禍により大会開催できず、予算は未執行である。なお、1月9日にこどもプラザと合同で開催した正月イベントの中で開催された。

(評価)

子どもの読書活動推進事業のブックスタート事業、図書の運搬業務委託事業、郷土カルタ開催事業とも、市の事業として適切であり効果が上がっていると考え。対象となる受益者の皆さんからも、喜ばれている。

全委員とも、現状のまま継続すべきと評価しており、委員会としても「現状のまま継続すべき」と考える。

(各委員の意見)

東野委員長ー①ブックスタート事業ー出生を祝い、本好きな子どもを育成したいとの市の願いを示す施策として、適切であり、効果が上がっていると考え。②図書の運搬業務委託ー図書館の図書を学校園・学童保育・学童クラブ等の団体の希望に沿い貸し出しができる事業であるが、費用対効果を考えても有効であると考え。③郷土カルター図書館独自の取組として、カルタ遊びを通じ郷土を知り郷土への愛着を育む郷土カルタを制作している。郷土カルタを市内に広げるためにも、郷土カルタ大会の開催は有効である。現状のまま、継続すべきと考える。

高瀬副委員長－①ブックスタート事業については、子どもの出生時や10か月児乳児相談時に絵本をプレゼントするというのは、それが読まれるかどうかに関わらず意義がある。②図書の運搬業務委託は、運搬した本の冊数よりもどれだけ読まれたかの数字が大切だが、事業としては継続することを望む。読まれることへの努力として、担任の指導力や学校側と図書館との連携（例えば、新書の紹介や貸出しの多い図書の紹介など）も必要であると考えます。

吉井委員－①ブックスタート事業：出生数そのものが実績に反映する。赤ちゃんの時から本に接し、言葉と心を育む趣旨から実績に関係なく継続すべきである。②図書の運搬業務委託：子どもの読書活動を推進する取組である。話題のICTを活用し新刊の情報提供をする等、貸出冊数の拡大への工夫に期待する。③郷土カルタ大会の開催：コロナの影響で大会は中止されたが「カルタあそび」が開催された。小学生から西脇市に関する読み句を募集する等、カルタ誕生の過程も大切に。郷土愛の醸成に「郷土カルタ」を役立てていただきたい。

藤原秀委員－①私自身我が子の出生時にブックスタート事業で絵本をいただき、その絵本を活用させていただき子育てや本始めをすることができた。②読書は児童生徒の教育の柱であり、読書することで言葉が増え、読解力が付き、文字の読み書きにも役に立つ。図書を運搬していただき読書の推進に役立っている。③カルタ遊びは、日本古来の遊びであり、知識がつき、仲間や家族と共に遊ぶことができ、豊かな心を育む事ができ、良い大会である。コロナ禍で大会はできていないが、ぜひコロナ明けには再開すべき事業である。

藤原哲委員－小学生は自宅で親と読み聞かせを行っており、貸出冊数は昨年比べてよい状況である。中学生・高校生への本の貸出しが少なくなっているため、今後、中高生に対し貸出向上への啓発が大切である。総合的には、事業評価としてうまく運用されている。

林委員－特に問題は無いと考える。引き続き頑張ってもらいたいと思う。

村岡委員－図書の運搬業務委託、郷土かるた大会の開催は、AIの時代だからこそ必要な事業であり、さらなる充実・継続が望まれる。本（読書）を通じて、未来を創造する才能同士の出会いがあると同時に、噛み応えがあり知的栄養価が高い情報を得ることで、未来を切り拓くための判断力、知的筋力が鍛えられる。

高瀬弘委員－①ブックスタート事業では、保護者の希望を聞いたうえで配布されること、②図書の運搬業務についても、先生や子どもたちの希望する本が届けられていることなど、ゲーム機器が氾濫する中で、子どもが身近で読書に親しめる環境づくりに役立っていると考えます。③郷土カルタ大会の開催については未実施であるが、子どもたちの想いで作成されたカルタの周知を図る中で、郷土への想いが高まることを期待する。

議会による事務事業評価（議員）

評価対象事業名	子どもの読書活動推進事業 818千円		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	委員8人の集計
基本政策	生涯活躍・共生社会の実現		
政策			
施策	①ブックスタート事業、②図書館の運搬業務委託、③郷土カルタ大会の開催		

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評 価 内 容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき	(△) どちらともいえない	(×) 不良・すべきでない	
妥当性	4.5	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	8		
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	7	1	
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	8		
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか	7	1	
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か	4	4	
		カ) 市民全員のためになっているか	4	3	1
有効性	4.1	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか	6	2	
		イ) 事業目標が達成できているか	5	3	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	5	3	
		エ) 目標が低く設定されていないか	5	3	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか	3	4	
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか	2	5	
効率性	4.1	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	6	2	
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か	8		
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか	5	3	
		エ) 事業に投入された人員は適切か	2	6	
		オ) 事業の合理化は図られているか	3	5	
		カ) 受益者負担等は適切か	6	2	
総合評価	4.3	（事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由） 子どもの読書活動推進事業のブックスタート事業、図書館の運搬業務委託事業、郷土カルタ開催事業とも、市の事業として適切であり効果が上がっていると考え。対象となる受益者の皆さんからも、喜ばれている。 全委員とも、現状のまま継続すべきと評価しており、委員会としても「現状のまま継続すべき」と考える。			

今後の方向性		拡充	評価指標	
※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載	◎	現状のまま継続すべき	5	極めて高い
		見直しのうえ継続すべき	4	高い
		事業単位を見直し	3	普通
		（統廃合・縮小のうえ継続）	2	低い
		廃止	1	極めて低い